



## 巨大窯で新たな挑戦 寒風新大窯空焚き火入れ式

備前焼の県重要無形文化財保持者である森陶岳さん（71歳・牛窓町長浜）が、同所に築いた寒風新大窯が完成し、8月19日、空焚き火入れ式が行われました。

大窯は、全長85メートルの半地下構造の直炎式登り窯で、約8年間を掛けて築窯されました。今回は作品を詰



寒風新大窯で火入れ前の神事を行う森さん(右)

めない空焚きで、20日間焼かれ、その後作品制作に入り、本焚きは平成25年の予定。江戸時代に絶えた大窯を復元、研究してきた森さんは「無事に火入れができ安心しました。先人の清新さを感じ、そこに近づいていきたい」と話していました。



市民にチラシを渡す大重喜志子一日救急隊長(右から二人目)

## 9月9日は救急の日

一日救急隊長が救急業務の大切さをPR

救急業務に対して、地域住民に正しい理解と認識を深めてもらおうと、救急の日(9月9日、瀬戸内市消防本部は一日救急隊長に、千手婦人消防隊の大重喜志子さんを委嘱しました。大重さんは、同消防署で救急技術訓練を見学後、福田保育園(児玉洋子園長・

園児150人)に行き、救急に関するクイズを出題。園児たちはみんな考えてながら、楽しく答えていました。その後、邑久町のスーパーで啓発用チラシを配布し、応急手当の大切さや救急車の適正な利用について、市民の皆さんに呼び掛けました。

## 町の良さを再発見

市政バスで施設見学

市内の施設を見学し見聞を広めようと8月27日、市政バスを運行しました。夏休みの思い出にと親子での参加を呼び掛け、市民12人が参加。参加者は備前長船刀剣博物館(長船町長船)と岡山県水産試験場栽培漁業センター(牛窓町鹿忍)を訪ねました。日下弘



植木所長から稚魚についての説明を受ける参加者の皆さん

## 防災意識を高めよう

瀬戸内市総合防災訓練

牛窓中学校グラウンドで9月7日、地域住民や関係者約500人が参加し、市総合防災訓練が行われました。

大規模地震が発生し、市内各所で液状化、土砂崩れ、家屋の倒壊、建物火災など甚大な被害が発生。電力・通信・水道などのライフラインに被害が生じているという想定で行われました。

避難誘導やバケツリレー・粉末消火器での初期消火、救急・救助訓練、陸上自衛隊への派遣要請による非常食の炊き出し訓練など、関係機関と地域住民が一体となって取り組みました。参加者の皆さんは、防災訓練の重要性と市民の皆さんとの連携の大切さ、防災意識など認識を新たにしていました。



倒壊家屋救出訓練で閉じ込められた人を助け出す消防団の皆さん

## 子ども農山漁村交流プロジェクト

玉津小学校児童が農家民泊体験

牛窓町前島で8月16・17日の2日間、玉津小学校の5・6年生8人が、「子ども農山漁村交流プロジェクト」の農家民泊体験を行いました。

「子ども農山漁村交流プロジェクト」は、小学校における農山漁村での長期宿泊体験活動を推進する総務省、文部科学省、農林水産省の連携プロジェクトで、本市は受入モデル地域として本年度選定された全国53カ所の一つです。児童たちは、農家と酪農家の2班に分かれ、それぞれの仕事を手伝いながら、受入農家と交流を行いました。キャベツの土づくりや水やり、牛舎の掃除や子牛のミルクやりなどを率先して行い、一段とたくましく成長。児童は普段の生活とは異なる体験ができ、受入農家も子どもたちに元気をもらい、お互いに有意義な時間を過ごすことができました。



千手・栗利郷婦人消防隊の皆さんが行った軽可搬ポンプによる初期消火訓練



消防本部と岡山市消防局消防航空隊による合同訓練



牛に餌をやる児童たち